

# 「想定外を想定」大切

初の防災  
セミナー  
震災教訓に学ぶ

製鉄記念室蘭病院



来院者らが「日常生活から備える大切さ」などを学んだ防災セミナー

製鉄記念室蘭病院（松木高雪院長）が主催する「防災セミナー」が20日、室蘭市知利別町の同病院で開かれ、来院者や患者ら約30人が、命を守る対応や、日常生活から備える大切さなどに理解を深めた。

がん患者への総合的なケアを進める施設として、今年10月にも稼働を予定する同病院の「がん診療センター」は、万一の災害時には、近隣住民らの避難所機能としても活用される。

同病院では同センターの稼働に合わせて、防災対策への取り組みを強化しており、今回のセミナーも、その一環として初めて開かれた。

この日、同市防災対策課の太田篤司課長が「その時、あなたならどうしますか？『東日本大震災から学ぶこと』」をテーマに解説。太田課長は目の前に危険が迫ってくるまで、その危険を認めようとしない心理傾向「平常化の偏見」が災害時には一層表れるとした状況

を説いた。また、津波から命を守るためには「想定外を想定し、今できる精いっぱいのことをするように最善を尽くす。一生懸命に逃げる姿は周囲の命も助ける。自分から進んで逃げること」などと述べた。

（松岡秀宜）